
土の神ライダー エピローグ

フェニックス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

土の神ライドー エピローグ

【Nコード】

N0965Z

【作者名】

フェニックス

【あらすじ】

ウエストホース大陸。ならず者が横行する大陸。その大陸の保安官にレオ・バレッタとチャンクがいた。3年前、同僚のマリアを亡くし、新しい保安官 剣 ミサトを迎え、今日もパトロールに向かうのだった。マリアを殺害したショットガンナーが、改造人間としてまだ生きている事を知ったミサトは単独でアジトに乗り込み、レオの目前で戦死する。圧倒的な力にひれ伏す、レオとチャンク。黄泉の世界から戻ってきた二人と共に再び戦いショットガンナーとレオ・バレッタは共にウエストホースから姿を消すのだった。

「アインシャーク。結局二人はどうなったんだ？燃え尽きたのか？」
「それは二人しか知らないさ。行こうか？アドニス。次の神を探しに」
「まあ、そうだろうな。この大陸にも守り神は必要だし。いずれ呼ばれる日も来るさ」
「アア。帰ろう。飛空挺ジューブナイルに」

「ショットガンナー。我が義兄弟よ。見事であつた。お前はこの大陸で何を見たのか？今となつては聞く事も出来ん。改造人間計画もまだ未完成か。良いサンプルは取れた。まあ、良しとしよう。さらばだ。我が義兄弟よ」
「トップガンナーはマントを掴み帰路についた」
「ン？これは奴のショットガン。良い手土産になった。これを継承する究極の戦士を探すとするか」
「トップガンナーは地面に突き刺さつたショットガンを引き抜き馬で去つて行く。」

「元老院様。大損害でしたね」
「それでも無いさ。残つた兵士で建て直せば良いさ。この大陸と共にな」
「元老院様。ご提案があります。この地に慰霊塔の建築を。そうすれば残つたもの達の仕事になりますから」
「ウム。そうしよう。明日から忙しくなるぞ。兵士達には休息を与えよ」

「ショットガンナー。お前は掟を破った。黄泉の住人は1日以内に黄泉に戻れと。忠告したではないか?」「霸王、仁王。わかっていゝる。どんな裁きも覚悟のうえさ。ところでレオ・バレッタはどうなつた?」「会わせてやろう。ついてこい」「あれは……………チャンク、マリア、ミサト……………そうか。幸せにな」「奴はお前の罪も背負っていた。知っていたか?」「俺の?……………お節介な奴だ」「行こうか?永遠の闇に」「霸王、仁王。永遠の闇とは何処にあるんだ?」「宇宙空間だ。永遠にさまよい、流れ着いた先は知らない今後、奴等に会うことすら無いのさ」「……………そうか。しばらくここに居させてくれないか?奴が目覚めるまでで良い。頼めるか?」「好きにしろ。準備が出来たら言え」

レオ・バレッタ。俺とお前は光と闇だ。お前の裏の顔が俺だ。おそろく産まれる前から会っていたのだろ。復活の義には俺も駆けつける。招待状を送ってくれ。約束したはずだ。次はお前のサポートに回ると。お前の近くで見てみたい。その大義を。

数年後、ウエストホースには大きな慰霊塔が建っていた。

「元老院様。お早くお願いします。民が挨拶を待っていますから」「地味過ぎないか?この服は?」「大丈夫ですよ。さあ、早く」

保安長よ。苦勞をかけたな。ご苦勞であつた。それより連中は何処へ行つたんだ？浮游城の皇帝アインシャーク三世と火の神の遣いアドニスとやはら」「わかりません。彼らもレオ・バレッタも戻りませんから」「左様か？悲しいな。主役のいない祝賀会も」「これからですよ。我々で英雄を育てれば良いではないですか？この大陸の守護神を継承する者を」「そうだったな。行こうか？スピーチは苦手なんだがな……………」

こうしてウエストホース大陸の物語は終演を向かえた。いつかまた始まるドラマを残して大陸は祝賀会の歓声に湧くのだった。

「レオが黄泉の王から勲章を貰うらしい。行くか？ショットガンナ
ー」「アア。行こう」

会場で出会う二人。「レオ。ワインは足りてるか？」「ショット。来ると思つていたぜ」「報告がある。俺は宇宙空間をさまよう。もうこの星に産まれる事は無い」「そうか。そんな世界に行くのか。……………また会えるか？」「誘つてくれたらな。レオ。遠い記憶で誰かが呼んだ気がした。お前か？」「同じだ。俺も誰かに呼ばれてお前と出会つた。そうゆう宿命だったんだろ？」「探しに行かないか？二人で抜け駆けして。お前も宇宙空間まで来いよ。こんな所で

酒をあおっている男であるわけ無いだろう？お前は」「付き合っぜ。シヨットガンナー。どこまでも行ってみせる。そこにお前がいるなら」

「エッ？ちょっとレオ！どこいくのよ！まったくもー」「マリア、チャンク、ミサト。世話になったな」「お前は……………シヨットガンナー。何処へ連れていく？」「知らねえさ。そんなもん。なあシヨット。行こうぜ！新世界に！」「楽しめそうだな。俺達も付き合うぜ。シヨット。旅は道連れだろうが」「チェッ。せっかく旨い飯にありつけそうだったのに。しょうがない。アタイも付き合っよ。ミサト。アンタは？」「お供しますよ！私を置いていくなんて連れないじゃないですか！」「決まりだな。明日にでも霸王、仁王の所に行こうぜ！」

「待て！お前たち！異端児と共にするとは許さんぞ！追えー！逃がすなー！」黄泉の王が雷を落とす。

その後、五人は宇宙に飛び立った。決して戻らぬ永遠の闇に安らぎの地を求めて。

土の神ライダー 完結。

次回、死超星 編 第1部

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0965z/>

土の神ライダー エピローグ

2011年12月3日19時01分発行